

## 令和元年度医学部オープンキャンパス開催



令和元年8月9日(金)、本学医学部にてオープンキャンパスが開催されました。当センターでは、平成22年から「模擬医療実習」を行っています。

医学部が実施する体験コースの中で、毎年多くの高校生がこの「模擬医療実習」を希望して下さっており、大変嬉しく思っていると同時に、この模擬実習を選んだ良かったと思ってもらえるようにと毎年企画・準備に臨んでいます。

今回は市原先生(消化器・内分泌・小児外科)、武石先生(脳神経外科)、小田先生(呼吸器内科)にご協力をいただき、基本手技から高度医療機器まで幅広く体験できるように企画しました。

また、実習終了後には、「高校生から医師への質問コーナー」を設けました。高校生からは、「なぜ医師になろうと思ったのですか?」「医師になって良かったと思うことは?」「診療科はどのように決めたのですか?」といった医師を目指すための質問や、「趣味は?オフの過ごし方は?」「一日の生活について、仕事時間・睡眠時間はどれくらいですか?」といった医師になってからの質問が多くみられました。



## 腹腔鏡担当(市原明子先生)からのコメント

8月9日に開催されたオープンキャンパスで、今年度から設置している腹腔鏡シミュレーター(Lap-SIM)を用いたトレーニングを担当させて頂きました。

県内の高校生に中3生も1名混じった少人数ごとのグループで、ベーシックコースの腹腔鏡3次元空間を、鉗子操作を通して体感してもらいました。

遠近感を捉えるのに初めのうちは戸惑いながらも、ゲーム感覚で楽しんでもらった様です。

最後の質問コーナーで「医師になっていなかったら、どんな仕事をやってみたいですか」と聞かれ、未来にいろんな可能性が開かれた学生さんならではの質問だなと印象深かったです。

## 気管支鏡担当(小田康晴先生)からのコメント

最初に気管支内視鏡の適応(肺炎患者や肺癌患者に診断のために行う)について説明を受け、その後、実際に一人ずつ内視鏡を操作しました。消化器内視鏡と違い一本道ではなく、左右に1番から10番までの気管支番号がついており、それを順番に探してもらいました。時間は少し足りなかったかもしれませんが、皆さん楽しく操作してもらいました。実際のカメラを触ることで、医療分野に対するモチベーションの向上につながったのではないかと思います。



## 血管内カテーテル担当(武石剛先生)からのコメント

脳血管造影、脳血管内治療について簡単に説明した後、脳血管内治療のシミュレータを用いて、一人ひとりカテーテルを左内頸動脈まで誘導する手技を行いました。当然のようにこれまでカテーテルに触れたことはないはずですが、上手に左内頸動脈に留置することができました。この体験が本格的に医学部を目指すきっかけとなったのではないかと思います。私も気が付けば医師になって久しく経ちますが、医学部を目指す当時の気持ちに帰ることができ、ある意味新鮮な体験でした。



## 学会報告

## 日本医学教育学会

令和元年7月26～27日に、京都府立医科大学にて第51回日本医学教育学会大会が開催されました。

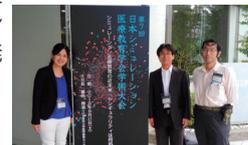
今年は「卒前・卒後のシームレスな教育」をテーマとしたセッションが多い印象でした。本学からは、副センター長の小松医師が「シムリンピックからPost-CC OSCEへ一特に大学独自課題について」のシンポジストとして登壇しました。

また、昨年まで本センター所属だった長野医師は、本センターでの臨床実習の内容を「Scenario creation based learningによる学習者の反応と学習効果」として口演発表しました。古賀総合病院の松浦医師は、本センターが中心となって開催した宮崎県院内メディカルラーの課題の一つを「コンフリクトから学ぶ高齢者救急診療シミュレーション実施の試み」として全国で紹介して下さいました。(小松)



## 日本シミュレーション医療教育学会

令和元年9月21日(土)に、日本医科大学にて第7回日本シミュレーション医療教育学会学術大会「シミュレーション医療教育の近未来：シンギュラリティは何処に」が開催されました。本学附属病院の看護師に対して支援させていただきましたシミュレーション教育の成果を、「病棟単位で実施した看護師に対するタスク型とシナリオ型2段階救急蘇生シミュレーション教育方法の検討」として発表しました。(釋迦野)



●臨床医学教育部門

共用試験特集 ～共用試験実施専門委員会の新体制発足と活動～



今年2月より、今まで分かれて活動していたOSCE、CBTの各専門委員会が統合され、「共用試験実施専門委員会」が発足しました。この委員会は、委員長に医療人育成支援センター臨床医学教育部門の小松弘幸、委員に医療人育成支援センター臨床医学教育部門の4名の専任教員（安倍弘生、船元太郎、宮内俊一、遠藤穰治）、各診療科より6名のOSCE担当委員（医療人育成支援センター兼任教員）、基礎医学講座より2名のCBT担当委員、副学部長（教育担当）澤口朗先生の合計14名により構成され、本学における共用試験の円滑

な運用・実施に携わっております。

本年度も医学科4年生のCBT（8月23日実施）及びPre-CC OSCE（8月31日実施）、医学科6年生のPost-CC OSCE（8月3日・4日実施）を当委員会主導で実施し、無事に終了することができました。今後も公正で円滑な試験実施に努めてまいります。（安倍）



OSCE担当 【医療人育成支援センター兼任教員紹介】

医療面接担当：水谷陽一先生（放射線医学）



医療面接担当の放射線科水谷です。医療面接で大事な点は「聞き上手」になることだと思います。そして、聞き上手になるためには「聞く心・姿勢」と「聞く技術」があります。OSCEで学ぶのは「聞く技術」です。相手に話に傾聴し、相手の心のなかで何が起きているかに目を向け、なおかつ必要な医療情報は逃さないようにする。そのような技術を学ぶ場です。医療面接の質は最終診断に直結することを忘れないでください。

最終診断に直結することを忘れないでください。

腹部診察担当：池田拓人先生（消化管・内分泌・小児外科学）



Post-CC OSCEにおいては模擬患者の方々とさまざまな質問を想定してストーリーの調整を行った上で本試験に臨みましたが、本番では受験生のそうきたかという質問が次々に出現し、それに合わせて調整を行っていく作業にはかなり骨が折れました。Pre-CC OSCEにおいては腹部身体診察を担当しましたがみなさんある程度よく練習されていると思いました。OSCE試験を通じてひとつ再認識したことは問題文にさまざまな情報が書かれていても試験という状況下ではあまり読めないということでした。

OSCE試験を通じてひとつ再認識したことは問題文にさまざまな情報が書かれていても試験という状況下ではあまり読めないということでした。

頭頸部診察担当：中馬秀樹先生（眼科学）



頭頸部の責任者として指導させていただいています。わたくしは眼科医ですので、病歴と頭頸部しか日常診療に直接的に関与することはありませんが、とてもよく考えられた構成内容で、医師になっても非常に役立ちます。それぞれの手技は先人医師たちの知恵、経験の結晶で、加えて奥深い解剖、生理が含まれています。上手く出来すぎて良くないことはありませんから、繰り返し、意味を理解して手技を身につけてください。楽しみに期待しています。

楽しみに期待しています。

神経診察担当：塩見一剛先生（神経・呼吸・内分泌/代謝学）



Pre-CC OSCEは評価者の先生方も経験者が多くなり問題なく行われるようになりました。一方でPost-CC OSCEについては、医療面接と身体診察の模擬患者の方、評価者の先生方には、まだ大変ご苦労をおかけしていると思います。今後もOSCEが問題なく遂行されるよう評価の標準化や医療面接の方との話し合いなど十分な準備を進めていきたいと考えております。皆様にもご協力をお願いします。

皆様にもご協力をお願いします。

胸部診察・バイタルサイン担当：鶴田敏博先生（循環体液制御学）



「胸部診察・バイタルサイン」を担当しています。学生諸君が実りある臨床研修が行えるように診察実習・実技試験を行います。試験には多くの教員や事務職員、ボランティアが関わります。臨床の現場で最も大事なことは患者とのコミュニケーションです。実は聴診器も一翼を担います。しかし、これを学ぶための「生きた教材」は大学の外にあるでしょう。さあ、スマートフォンを置いて町へ出かけましょう。自分の器量を育てましょう。

自分の器量を育てましょう。

救急担当：齋藤勝俊先生（救命救急センター）



OSCEに関わり始めてすでに3年が経過しました。年を重ねるごとに宮崎大学のOSCEが洗練されていることを実感しています。これは院内の教職員のみならず、All MIYAZAKIで良医を育成するという理念のもと協力して下さっている皆様のおかげです。救急領域は医療の原点だと考えていますので、臨床の現場で目の前の患者を救命するための実力をつけてもらえるように、より良いOSCEを目指していきたいと思っています。

より良いOSCEを目指していきたいと思っています。

## CBT担当 豊嶋典世先生(超微形態科学) 前川和也先生(構造機能病態学)



私たちは、共用試験実施専門委員会の中でも特に共用試験CBT関連業務に携わるお仕事をしています。CBTは、医学生が診療参加型臨床実習に進むにあたり、その能力と適正を評価するために全国の医学科4年生に対して行われている試験です。

(前川) CBTの問題作成では、各大学でそれぞれの問題が妥当かどうかを検討したのち必要な修正を行います。その後、全国の医学科の教員が東京に集まり、さらなる検討・修正を行います。受験生の皆様には、

全国の医学科教員の「愛」を感じながら問題を解いて頂きたいと思っています。皆さんがお医者さんになって、私たちと一緒にCBTの問題を作る日がくるのを楽しみにしています!

(豊嶋) 時にオブザーバーとして他大学に派遣され、「試験」全体を最初から最後まで監督する業務も行っています。これは共用試験の質、運営の公正性・公平性を担保する(学生がどの大学でも同じ状況で試験が受けられる)意味で重要な業務です。試験の信頼性が損なわれると大学の責任を問われます。客観的にみて、本学では皆さんが安心して受験できるような状況が整えられています。ぜひ本試験で全員合格(可能です!)を目指して頑張ってください。

### 医療面接模擬患者

#### 児玉藤子さん

試験に患者役として参加する時はやはり緊張します。臨床実習の時のように自由にしゃべるわけにはいきません。一字一句間違いないように…とまではいかないですが、シナリオに沿って演じないとイケません。老化している頭に「カツ」を入れながら頑張っています。学生さんの中には気の毒なくらい緊張して普段の力を発揮できてないだろうなあ～と思える人もいて、心の中で「ガンバレ!落ち着いて」と声をかけています。

宮崎大学の学生さんが一人の医者として巣立っていく過程にほんの少しでも関われることは、私にとって幸せです。それは、とっても良い社会貢献であると思えるからです。

#### 児玉理恵子さん

学生さんが、私たち模擬患者のせいで試験に落ちないように、一生懸命シナリオを暗記し、わからない点はこと細かく共用試験担当の先生方に教えていただきます。どんな質問が来るか緊張しつつ、ワクワクもして、「学生さん頑張れ!」と思いながら臨んでいます。

★安息の会…平成19年度から宮崎大学医学部医学科に模擬患者としてご協力いただいているボランティアの方で、現在22名で活動中。

(安息の会(模擬患者)の皆さん)



(前列中央) 児玉藤子さん  
(前列右) 児玉理恵子さん

## ●看護実践教育部門

### 看護学科総合実習での採血演習実施報告



令和元年8月2日(金)、総合教育棟にて看護学科4年生を対象に静脈採血演習を実施しました。この演習は、2年次、4年次、看護部新規採用時に継続した教育を提供できるように、看護学科・看護部・本センターの3部署が協同し、毎年実施しているものです。この取り組みも3年目を迎えたことで、今年度初めて2~4年次に向け継続した教育を行うことができました。学生からは「2年次は手技に集中し患者への声かけを忘れることもあったが、今回は患者の不安や思いを大切に、誠実な対応をすることが信頼関係を構築していく上で重要だと学ぶことができた」等の感想があり、継続した教育が段階的な学びにつながっているのではないかと思います。(加藤)

## ●医療人キャリア支援部門

### ～クリニカル・クラークシップIのD班に直撃インタビュー～

今回は、クリニカル・クラークシップI(実践的な臨床能力を身に付ける診療参加型実習)で「医療安全学」を実習中の学生に、医学科5年生の時点で考えているキャリアについてインタビューさせていただきました。

Q. 自分が将来選びたいと思っている診療科があると思うが、クリニカル・クラークシップIの実習前と実習後で、思いは変わらないか変わったか。

A. 学生a: 座学で面白い科だと思っていたが、臨床で実際回ってみると違っていった。

学生b: クリクラを回っていて、将来行きたい科のイメージが違っていった。その逆もあり魅力ある診療科もあった。

Q. 将来のキャリアについて、情報収集はどうしてるか。

A. 先輩に聞く情報と自分で調べる情報を使い分けている。

Q. 将来のキャリアはどこまで考えているか。

A. 学生a: 海外留学とかも考えているが、将来結婚して家族ができたとしたらどうなるかとか考えることもある。

学生b: 地域枠で入学しているので、専門医取得後のサブスペシャリティのことまで考えている。

学生c: 宮崎に残るつもりだったが、地元の病院を見学してみても心が揺らいでいる。

Q. キャリア支援に望むことは。

A. 学生a: 研修医・専門医に関するすべての情報を挙げてほしい。その情報を見るかは個人の判断で。見たい時にいつでも見れるサイトを作ってほしい。

学生b: 宮大生でも大学病院見学できませんか? 将来働けるかどうかの視点でみてみたい。



\*インタビューにご協力いただきましたD班の皆さんありがとうございました。

## ● 新任教員及び事務紹介



臨床医学教育部門  
助教 **遠藤 稜治**  
(医療シミュレーション教育統括部門長)

2019年7月1日付で医療人育成支援センターに配属となりました。医学部附属病院では救急科との兼任です。こちらでは医療シミュレーション教育統括部門を担当します。外科や救急の現場でふとしたミスが命取りに繋がる状況を見聞き体験してきていることもあり、シミュレーションの重要性は痛感しています。先達の失敗から学ぶことは多く、卒前を含めた早期から実臨床に繋がる指導への協力が出来ればと考えています。



臨床医学教育部門  
助教 **黒木 純**  
(宮崎県地域医療支援機構分室専任医師)

はじめまして。医師8年目、小児科の黒木純です。出身は宮崎で、高校は宮崎西高校、大学も宮崎大学とずっと宮崎で過ごしてきました。宮崎大学には第1回目の地域枠推薦で入学しています。地元宮崎の医療に貢献できるよう、また、後輩の良いお手本になれるよう頑張っていきます。よろしくお願いいたします。



臨床医学教育部門  
助教 **野田 智穂**  
(宮崎県地域医療支援機構分室専任医師)

2019年8月から医療人育成支援センターに配属になりました野田智穂です。昨年の医師法・医療法改正による地域枠・地域特別枠学生の混雑が大いことから、個別相談や支援の体制整備の一環として現職を拝命いたしました。自分自身、宮崎県の地域枠第1期生であり、これまで自分が先輩方にしていただいたように、後輩の先生達も安心して県内でキャリアを重ねることができるようサポートしていきたいと思えます。地域枠については、今年8月に地方紙にも取り上げられており県民の皆さんの関心も高いことと思えます。我々宮大生は、卒前から白菊会の皆様、模擬患者の皆様をはじめ多くの地域住民の方々に支えられています。感謝の気持ちを忘れずに、医師として県内の医療を支えることこそが我々にできる唯一の恩返しと考え、日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。



事務  
**桑津 あゆみ**  
(宮崎県地域医療支援機構分室事務)

9月より宮崎県地域医療支援機構大学分室に配属となりました桑津あゆみです。地域枠・地域特別枠のみなさんのサポートをさせていただきます。頑張りますので、よろしくお願いいたします。

## 地域医療支援機構宮崎大学分室だより

### 「宮崎から医師を目指そう!フォーラム」開催

令和元年8月25日(日)、宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会主催による「宮崎から医師を目指そう!フォーラム」がJA AZMホール(宮崎市)で開催されました。

この日は、医学部を目指す宮崎県内の高校生やその保護者、学校関係者165名の参加がありました。今回は、一般入試(前期試験)にスポットを当て、今年入学した医学部1年生(3名)の方に合格のコツを伝授していただきました。高校生からは、「勉強に気がのらないときは?」と今抱えている悩みの質問が出ていました。

また、昨年希望が多かった「女性医師のキャリア」について、谷口恵里奈先生(小児科医師)と宮本美由貴先生(内科医師)のママさん医師に登場していただきました。「産休に入るときには、担当していた患者さんはどうなるのか」「出産の時期はどうか決めたか」など女性なら一度は悩む質問もあり、ご自身の体験を通してアドバイスして下さいました。

医師を目指す皆さんの夢が、夢ではなく現実になるよう、今後もAll Miyazakiで応援していきたいと思っています。(舟橋)



### 「各学年リーダー決定」

現在、宮崎大学医学部医学科には、111名の地域枠・地域特別枠学生が在籍しています。今まで、大学分室からの情報発信が多く、学生からの声を聞く機会があまりありませんでした。

そこで、1～5年生の各学年から3名ずつリーダーを選出していただき、15名のリーダーが決定しました。

記念すべき第1回のミーティングが、令和元年7月29日(月)に行われました。分室長の小松弘幸、地域医療・総合診療医学講座の吉村学先生、キャリアデザインサポート委員長の澤口朗先生、県医療業務課と各学年リーダー14名が参加、「新たなキャリア支援の組織体制」や「大学分室の役割・年間活動計画」などについて情報共有をしました。また、学年リーダーのあいさつの中で、学生の考えや今抱えている悩みが学年間でかなり違うことが判明しました。

今後は、各学年からの意見や提案をミーティングの場で発言してもらい問題解決に努めるとともに、県や大学も最新情報を提供し、1人1人のキャリアをサポートする体制が構築できればと思っています。



医療人育成支援センターホームページ

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/iryujin/>

医療人育成支援センターFacebook

<https://ja-jp.facebook.com/iryujinikusei/>



《HP》



《facebook》

## 宮崎大学医学部医療人育成支援センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地

TEL:0985-85-8305 FAX:0985-85-7239 E-mail:ikyuu@med.miyazaki-u.ac.jp